

## 第4回 中国圏広域地方計画協議会 議事録

■日時：平成27年9月14日（月）14:00～16:00

■場所：リーガロイヤルホテル広島 4階ロイヤルホール

### 議題

- (1) 中国圏広域地方計画協議会規約（案）について
- (2) 新たな国土形成計画（全国計画）について
- (3) 新たな中国圏広域地方計画の中間整理（案）等について
- (4) その他

### 1. 開会

#### （事務局）

本日は協議会構成員39名のうち代理出席を含め26名にご出席いただいている。1/2以上の出席となるので中国圏広域地方計画協議会規約第5条第3項により本協議会が成立することをご報告する。

#### （山下会長 挨拶）

中国圏広域地方計画は中国圏の今後10年間の将来像を定める大事な計画でございます。3月の協議会でご議論いただいた骨子案に基づき、その後約半年の間に計画の基本的な方向性、その実現に向けた具体的プロジェクト案策定などに関する検討が進められてまいりました。中間整理案のとりまとめに向けて学識者会議や幹事会の場で精力的な議論が行われたと伺っております。関係各位のご努力に厚く御礼申し上げますところでございます。国の方では8月14日に国土形成計画の新しい全国計画が閣議決定されました。その中では各地域が地域独自の個性を活かし、相互に連携しつつ対流を形成するコンパクト＋ネットワークの具体化への取組が謳われております。地方においても人口減少問題の克服と成長の確保に向けて地方版総合戦略の策定とともに地域の実情に応じた取組を進めているところでございますけれども、とりわけ都市部への人口流出に悩まされる当地域におきましては、優れた産業集積や観光資源の活用促進、円滑な物流や交流人口の拡大に資する交通基盤の構築、若者が定住し高齢者が安心して生活できる拠点の形成などに向け、主体的自立的な取組が求められるところでございます。そうした観点から自治体、地域間を有機的につなぎ、中国地方全体に目配りしつつ、各地域の計画を後押しする役割を果たすこの計画の策定は、非常に有意義なものであります。これにより力強い地方創生、国土強靱化への流れが作り出されていくことが期待されるところであります。中国地方が将来にわたり持続的に発展していくために地域の特性を見つめなおし、しっかりと知恵を絞りながら新しい中国地方の成長戦略を作る気概で、この計画を策定していきたいと考えております。協議会の皆様には限られた時間ではございますけれども、忌憚のない幅広いご意見を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

## (北本大臣官房審議官 挨拶)

本日は山下会長はじめ各県、各市町、経済団体、関係省庁の皆様方にはご多忙の中ご出席賜りまして、また平素から国土政策をはじめとする国土交通行政の推進に格段のご支援、ご協力を賜っておりますことを心から御礼申し上げます。また皆様には新たな中国圏広域地方計画の策定に向けまして大変ご熱心に協議いただいていると承知しております。深く敬意を表する次第でございます。先ほど会長様のご挨拶にもありましたように、去る8月14日に今後概ね10年間の国土作りのあり方を定める新たな国土形成計画、全国計画が閣議決定されたところでございます。この計画の概要につきましては後ほどご紹介申し上げますけれども、それぞれの地域が個性を磨き異なる個性を持つ各地域が連携する対流促進型国土の形成を目指すこととしており、そのための国土構造の基本的考え方といたしましてコンパクト+プラスネットワークということ掲げているところでございます。新たな中国圏広域地方計画につきましては、この全国計画を基本としながら中国圏域における骨太の圏域構造と、活力ある中国圏の実現に向けた具体的な取組方針を明らかにしていただくものと承知しております。まさに中国圏におけるコンパクト+ネットワークの姿と、それを生かした対流促進型国土の具体的な形が明らかになることが期待されているところでございます。ここ中国圏におきましても圏域内及び四国、近畿、九州など他圏域とのネットワークが形成されつつあり、社会資本整備のストック効果により各所に新たな人、物の動きが生まれてきているのではないかと考えています。その他産業構造や経済社会情勢、人々の価値観などに様々な変化が見られるところでございますが、このような変化を続ける世の中の動きを巧みに捉えていただきまして、中国圏域内に留まることなく四国圏をはじめとする他圏域との連携という観点にも立ちながら議論を深めていただければと思います。国土交通省といたしましてもご出席の皆様とともに中国圏の将来を展望した計画作りに努力してまいりますとともに、その実現に向けて関係各機関と連携を図ってまいります所存でございます。最後になりますが、本日ご出席の皆様方のますますのご健勝と中国圏の一層の発展を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

## 2. 議題

### (1) 中国圏広域地方計画協議会規約(案)について

事務局より中国圏広域地方計画協議会規約(案)の資料説明  
質問・意見なし、規約改定を承認

### (2) 新たな国土形成計画(全国計画)について

国土交通省 北本大臣官房審議官より資料説明

### (3) 新たな中国圏広域地方計画の中間整理(案)等について

中国地方整備局 新宅事業調整官より資料説明

## 質疑応答

### (山下会長)

私の方から2点発言させていただきたい。1点目は資料3にある基本コンセプトについて。基本コンセプトはこの計画を象徴する大変重要なものだと考えている。この基本コンセプトに関し

て皆様方からご意見があればぜひいただきたい。2点目は、中山間地域や島しょ部について。中国地域は中山間地域や島しょ部が非常に大きなウエイトを占め、人口も多いというのが特徴。これに関する内容が基本戦略3、本文の第3節に記載してあるが、これと中小都市との関係、あるいは位置づけなどについて皆様方のお考えがあればお聞かせいただきたい。その他、皆様方から幅広い忌憚のない意見を頂戴したい。

(鳥取県副知事 林 昭男)

3月以来、このような形で中間まとめをしていただき、課題に対してずいぶん細かく目配りをしていただいている。我々の地域のことも含めて盛り込んでいただき、計画が充実したものになったことにお礼を申し上げたい。また国土交通省におかれては概算要求が先般示されたが、それも今回の基盤整備、山陰道のミッシングリンク解消といった点についてもしっかりと配慮していただき、大変ありがたい。地方として期待しているのでよろしくお願ひしたい。

基本コンセプトの中に「個性が連携し発展する中国圏」という言葉があるが、個性はどこも個性。中国地方の個性は多様性ではないかと思っている。もう1つ、全国計画は「対流促進型国土」となっているが、これはそれぞれの地域社会において対流するのはもちろんだが、東京一極集中を是正するという意味での圏域間の対流、東京を介さない直接の対流というものがあるだろう。そういう意味で中国地方というのは近畿圏、九州圏、そして四国圏を結ぶ、まさに結節点であり、各圏域の結節点であるということを頭に置きながら色々な整備、あるいは拠点づくりをしていく必要があると思っている。それから連携という言葉が使っており、本当にその通りだと思う。多様性を活かすという意味でも内なる連携というものが必要だろう。併せて圏域の結節点ということから、対流を進めるという意味で外なる連携というものも必要。これはやはりミッシングリンクの解消ということが重要になってくる。そういうことを考えると、今回6つの基本戦略として示されている中に充分盛り込まれていると思うが、圏域内、及び圏域を越えてのネットワークというものがぜひ必要。その中での物流や人の流れが必要になってくる。

産業面で言うと、我々の地域は非常に多様性を持っており、地形も多様で四季も日本の中で非常に色濃く持っている。マリンスポーツもウィンタースポーツもある。アウトドアや歴史体験など様々なことができる。食の魅力もあるので、中国地域は国際リゾートとなり得る要素を持っていると考えている。そういう意味で中国圏域が連携した広域観光周遊ルートはぜひ必要だと考える。もちろん他圏域と連携した広域観光ルートも当然必要。

観光振興をなぜ強く申し上げるかということ、今私どもの県でも今年上期で外国人の流入が200%を超えている。国全体では140~150%だと思う。これまでが少なかったということでもあるが、伸び代が大きいということ、あるいはクルーズ船がたくさん来るということもある。インバウンド、海外誘客は地域の経済にとって非常に効果があると思われるので、発言させていただいた。

道路についてはミッシングリンクの解消を早くということと、幹線道路なので2車線で良いのかということがある。そのあたりをご検討いただくと同時に、最近事故が多発しており、ぜひ安全面での配慮をお願いしたい。海上輸送のミッシングリンクも解消すべく整備をお願いしたい。これからの観光誘客、物流を考えると、計画の中でも謳っているが空港も強く意識する必要がある。また鉄道についても記載していただいている。フリーゲージ、あるいは高速化ということだ

が、新幹線がない地域であり、陸、海、空の交通網含め、ネットワークが形成されていく中でやはり鉄道のネットワークというものも視野に入れていく必要があると考えている。

今回、6つの基本戦略の中にしっかりと盛り込んでいただいているので、1つ1つについてしっかり進めていただくようお願いする。

#### (島根県政策企画局次長 穂葉 寛佳)

コンセプトについては「個性が連携し」というのはまさに対流という言葉が意味するところだと受け止めるが、もう少し動きが見えるような、対流が感じられるような表現がないかなと思う。

鳥取県からも意見があったが、ミッシングリンク解消をまとめていただき感謝申し上げます。鳥根県の状況を申し上げますと、山陰道の供用率はまだ5割をやっと超えたところ。つながっているところでは企業の立地、産業振興や雇用の創出といったことが実現しているが、つながっていないという現実が対流の妨げになってはいけないと思う。これは観光の面でも同様。資料3の6ページにインバウンド・広域観光の推進について記載されているが、このように山陰地域にもグリーンガイドで星を付けていただいている素晴らしい観光資源があるにも関わらず、そこを動いていくための基盤が欠けている現実がある。鳥取県と島根県で連携して観光振興を進めていこうという話もさせていただいている。広域観光周遊ルートへの認定も視野に入れながら取り組んでいるので、そういった部分も考慮していただければと思う。

中山間地域について申し上げますと、島根県においても人口減少が非常に進んでいるので、必要な生活サービス機能を維持するのに苦労している地域が多々出てきている。それらを地域住民の皆様方の知恵と工夫で、自分たちで力を合わせてなんとかできないかということで取組が始まっている。行政としての支援も行っているが、拠点的なところができてそこを居住地域をどう結んでいくか、交通ネットワークの確保というのが重要な課題。また、島根県は日本海側に中小都市が連なっている。そういったところが中山間地域の医療、経済、仕事といった部分を支える役割を果たしているため、それらの中小都市に対してもその機能が発揮されるような対応が求められると思っている。さらに申し上げますと、資料3には記述がなく本編に記述があると承知しているが、交通ネットワークとともに中山間地域の情報通信基盤も非常に重要な要素を持っている。本編にあるように、高速通信網の整備が行き届いていないという現実に対して、その整備推進が重要であるということも意識しておく必要がある。

#### (岡山県政策推進監 小林 章人)

コンセプトはわかりやすいと思うが、対流させるためにはかなり大きな熱源が必要だと思うので、具体的に進めていく上ではどこに熱を加えるのか、どのくらいの熱量かを考えていかなければいけないと思っている。国におかれてもその辺を配慮いただければと思う。

小さな拠点という言葉、これはコンパクト&ネットワークを中山間地域において具現化して、中山間地域において人口減少問題を克服するための切り札と考えており、その具体化を県としても考えようとしているところ。ただ基本的なコンセプト、考え方はわかるが、対住民の関係で中心地域への集中を伴うということは必ずしも明言できない部分がある。地域ごとに色々なパターンがあると思うので、具体的なイメージを出しにくい。そのために取組の中心となる市町村に小さな拠点を進めることを働きかけるときに、そのイメージが少しぼやけてきている気がする。集

落、あるいは地域の活性化という面と、コンパクトにしてネットワーク化するというのは実は同じことではないが、やや活性化という脈絡で捉えられる傾向が最近出てきていると感じる。柱のコンセプトはコンパクトにしてネットワーク化ということで、それはある意味では集落の選別ではないが差を付けていくということになる。それは言いにくい面もあるが、本筋は明確に出していかなければいけない。岡山県としてもそういった形での何らかの支援制度を検討したいと思っている。色々な省庁が色々な案を出し、色々な支援策をされていて、充実していると考えますが、その中でコンセプトが少し揺れて受け止める側がわかりにくくなっているのではないかと。

(広島県知事 湯崎 英彦)

全体のコンセプトについては、「対流を行き渡らせる重層的なネットワーク+拠点の形成」ということで、その次の産業、観光等、こういった面で相互につながって総合力を発揮していくことができるというような意味で対流が起きて、個々の力に比べて全体の力が総和としてプラスになっていくという意味で非常に重要だと思う。先にネットワークというのが出てくるが、産業や観光振興という目的がもうちょっと強調されてもいいのかなと思う。ただ言わんとする中身はこの通りだと思っている。それから四国との連携、災害時のバックアップが非常に重要だというのは我々も認識しているところであり、こういう方向で進めていくのが良いと感じている。

インフラ整備について大きく3点申し上げたい。1点目はまさにネットワークに関わるインフラ整備の観点。今、地方創生ということで、東京一極集中を是正していこうというふうに動いている中で、経済活動の基盤であるインフラの整備、あるいは機能強化というのは非常に重要だと考えている。その中で既にご発言があったが、やはりミッシングリンクというのは非常に重要な解消すべき課題だと思っている。まさに対流を実施する上でミッシングリンクがあるというのは物流上も人流上も観光上も、非常に大きなネックになっていると思う。山陰道のミッシングリンクの解消はプライオリティを上げてぜひ取り組んでいただきたい。それから暫定2車線区間についても、多少混んでいる時間があるということもありますが、事故の問題は確かに出てきていて、特に山を越えていくところは冬場雪があるということもあり、ここは4車線化、或いは車線を増やすということをぜひ進めていただきたいと思う。そういう意味で直轄する道路等の整備もぜひ進めていただきたい。

空港については、前回の会議で申し上げさせていただき、さらに拡充した形で取り上げていただいております。感謝する。広島空港のCAT-111bについては本当に迅速な復旧をいただき、御礼申し上げます。航空ネットワークが重要であるということだが、特にアジアへ直結するという観点から言うと、国際定期航空路線を拡充していくというのは非常に重要だと思う。我々地方も様々な努力をしたいと思うが、国にもご協力をいただいてLCCを含めた国際定期航空路線が中国地方の空港に乗り入れる、増やしていくということを進めていただきたい。

港湾については1つは国際バルク、これは水島と福山でこれからまだまだ進めていかなければいけないと思っているので、ぜひよろしくお願ひしたい。もう1つ、コンテナについては資料3の方では明確に書いてあり、東アジア向けについては神戸集約という形ではなく地域から直接ダイレクトにコンテナを運んでいくという趣旨があるが、本文の方にはあまり明確に書いてない。ぜひ本文の方にもそういった記述を入れていただくとありがたい。

災害対策の強化について1つだけ申し上げると、先般中四国サミットにおいて、国土強靱化地

域計画の策定の中で中四国で連携して対応すべきことが明らかになってきたという話が高知県知事からあり、今後カウンターパート制による支援について国を含めてどういう連携を図っていくことが必要かということをも具体的に検討する必要があると思っているので、ぜひご協力をお願いしたい。国の方も整備局が2つにまたがっているもので、どのように進めていくのが良いか考える必要があるが、お願いしたい。

自転車の利用について、都市部の自転車利用空間の確保は非常に重要だが、観光振興のためにも非常に重要だと思っている。中国地方の各県で今、自転車を活用した観光振興は進めているので、官民一体で自転車利用環境の整備を進めていきたいと思っている。国の方でもナショナルサイクルルートの制度をご検討いただいていると伺っている。これはぜひ進めていただき、地方と国と市町村或いは民間も含めた積極的な展開を進めていきたいと思っている。

**(山口県総合企画部長 上野 清)**

前回の協議会で、知事から4点申し上げさせていただいた。それらを全て中間整理案では取り上げていただき、感謝申し上げます。引き続き具体的な計画作りの中で反映していただきたい。

コンセプトそのものについては、中国圏の課題として、まず著しい人口減少についてが最初に書かれている。その要因は特に若い世代の圏外流出であると思う。これを変えていくためには地方にしっかりと若者を留めておく、あるいは呼び戻してくるということが大事である。中間整理案では産業や地域経済の活性化の観点から地域資源を活用した産業創出及び雇用づくりということが書かれているが、人口減少対策という面で、若者の圏内定着あるいは圏内定住を促進する観点からも、雇用を増やすことの重要性をしっかりと全体として訴えていく必要があると思う。

中山間地域の振興について。本県ではやまぐち元気生活圏という、概ね旧小学校区ごとに施設や機能が集約されて日常サービスを楽しむ生活圏づくりを進めている。こうした小さな拠点に加えて、必要なのは経済活動が活発化していくこと。金が循環して初めて持続できる生活圏になる。こういった観点からもぜひ盛り込める部分があれば盛り込んでいただきたい。

基幹交通の整備によるネットワーク、特にミッシングリンクの解消について。本県においては山陰道の約8割がまだ未着手の状態。こうした状況が、企業誘致や観光振興あるいは県産品の販売促進などの大きな障害になる。ぜひともミッシングリンクの解消についてはしっかりと打ち出していきたい。

近隣圏域との連携について。本県の事情で言うと、今年7月に県内の5つの資産が世界遺産登録されたが、九州圏域等とあわせた8県23資産で構成される明治日本の産業革命遺産となっており、これらをつないで広域的な取組を展開していくことが必要になってくる。また、8月からは「平成の薩長土肥連合」という、鹿児島県、佐賀県、高知県、本県の4県が連携して、平成30年に明治維新150年を迎えることをテーマとした観光の取組も始まっている。さらに、近隣圏域との連携はこうした観光面だけではなく、産業振興や物流、あるいは防災の面からも重要であることから、四国圏、九州圏などの近隣圏域との連携、ネットワーク強化についてもしっかりと計画に反映していただきたい。

**(広島市長 松井 一實)**

中国圏広域地方計画のコンセプトの中に、誰もがこの圏域で長く生活し続けたいと思うような中国圏にするという意味の言葉が入っていれば、他の地方と差別化できるのではないかと思う。

人口減少、少子化に歯止めをかけ、東京一極集中を是正して地方創生を進めることは本当に大事だと思う。その際、自治体としては、高齢者福祉の充実や若い人のやりがいのある仕事、ここで子育てをしたい、住み続けたいと思えるようにすることが大事だと思う。それをやるための発想として、1つ1つの市町村で競争しては間に合わないため、少なくとも経済圏、生活圏で深く結びついている近隣市町が一緒になってやることを考えた。実際、今年7月からは広島県世羅町と山口県田布施町などを加えた23の市町と広域都市圏を形成し、ヒト、モノ、カネ、情報の活発な循環を生み出せるよう、今年度中に連携中枢都市圏ビジョンを策定しようと取り組んでいる。こうした取組が中国圏広域地方計画の中でも位置付けられれば良いと思う。また、こうした動きを拡大させるべく、浜田市、邑南町との連携や、岡山市、高松市、松山市との連携についても検討を進めている。こうした連携を進める上で欠かせないのは、交通ネットワークである。先ほどの岡山市、高松市、松山市との連携を考えたときに、陸のネットワークの充実・強化と同じくらい、瀬戸内海の島々を結んで生活圏を形成する海のネットワークの充実・強化が必要不可欠であると考えており、この両構えでやっていただきたい。国として航路の維持・拡充とその発着点となる港湾機能の強化を明確に打ち出していただくと、対流を生み出しローカルに輝く圏域ができてくるのではないかと思う。

加えて、安全・安心なまちというのはベースである。広島市は復興まちづくりビジョンを策定し、国、県とともに取り組んでいる。災害を受けない、受けたとしても速やかに復旧・復興できるよう、国と地方が一緒になって進めているので、こういった点についてもご配慮願いたい。

**(岡山市都市整備局副局長 鹿子木 靖)**

中国地方の特徴として、多様性があるというお話が出たが、逆に言えば全体を捉えた形容が非常にしづらいということかもしれない。多様性という捉え方で強みにしていこうということだと思う。ただ、それぞれの多様性がそれぞれの点で完結してしまったらそれぞれのエネルギーには限度があるので、国の計画に出てくる対流という言葉は中国圏にとって最も重要なキーワードの1つではないかと思った。だから中国圏の計画にある「個性が連携し発展する中国圏」というコンセプトは利にかなっていると思う。今回のような関係者が集まる色々な機会を活かして、まさに対流のために協働で取り組むことや交流、対流を進めるべきことについて共通認識を具体的に皆で持っていくということが非常に重要だと感じた。

中山間地域、島しょ部も中国圏の大きなキーワードの1つ。瀬戸内エリアで言うと、里海という言葉を使っていたが、想像するに本土側も島の住民も海に関わって生きてきたというニュアンスが込められた、価値のある表現だと思う。国際的な観光地として発展する道はあると私も思うし、特に瀬戸内の景色、体験できることは日本人でもまだまだ知らない方は多いだろう。この計画の中でも海まわりの話は特に強調していく価値が大いにあると思っている。

**(邑南町長 石橋 良治)**

邑南町は東西に長い島根県の真ん中あたりに位置している。広島県境にある町。松井市長さんからご紹介いただいたが、浜田市さん、広島市さんと一緒になって、何か連携ができないかとい

うことで事務ベースで今詰めている。それというのも浜田道というのがあり、広島市内に1時間でいけるという環境があるので、そのおかげで25年度、26年度続けて社会増という現象が起きている。とにかく高速道路は必要。ミッシングリンクはなくしていただきたい。こういう思いがあるのでよろしくお願いいたします。

コンセプトの中に観光の問題もあるが、県を越えた広域の観光というものをもっと考えていく必要がある。それぞれ空港を持っているが、もちろんそれぞれの空港の利用率を高める必要があるが、A空港を利用して次にB空港へ行って、というような県境を越えた取組が必要ではないかと思う。国の基本構想の中に対流という言葉があり、今盛んに出てきているが、人、モノ、金、情報の双方向の活発な動き、私はこれは大賛成。特に私は中山間地域にいて思うのは、人の対流が非常に大事。なぜなら中山間地域には様々な資源があるが、それをどうやって活かしていくかということについてはまだまだ人材が足りない。とにかく業を起こしてみようという若者、仕事を作っていこうという若者をどんどん地域へ呼び寄せる、そういった働きかけ、仕組みがもっと必要。邑南町の場合、農業をやりながら自分の特技を活かす、その逆もあるが、つまりマルチワーク、あるいは合わせ技、そうしたことで所得を得て生活している若者がたくさんいる。そうした働き方にも十分に目を向けていただき、そうした都市からの移住策を中国地方にも作っていただきたいと思う。少なくとも中国圏の中で子どもたちの農山漁村体験、邑南町では一部やっているが、子どものときからそういうことをどんどんやっていくことが必要。まさに人の対流が一番大事。合わせて情報。それぞれの県でだいぶ整備されてきていると思うが、既に古くなっているものもあるし、少なくとも全ての市町村でブロードバンドが整備され、Wi-Fiが整備されていなければいけない時代だと思う。これはぜひ国の責任でよろしくお願いいたします。

最後に、小さな拠点のイメージ。国土交通省さんで考えている小さな拠点と総務省さんで言っている小さな拠点は若干規模が違うと思う。もちろん小学校単位というのが大事で、そこには全て公民館というものがある。廃校になったところでも公民館はある。その公民館が学びの場であり、防災の拠点でもあり、安心安全の拠点でもある。そこがよりどころになっているので、私はやはり公民館単位を中心とした小さな拠点づくりについて、国土交通省さんにもさらに力を入れていただきたい。

#### (安芸太田町長 小坂 眞治)

安芸太田町は広島県で一番人口が小さい町。このたび中山間地という表現で色々な切り口を掲げていただいているが、さらに過疎、あるいは消滅というような大きな課題があるところ。そういったところから考えたときに、やはりまだまだ言葉が高いところを飛んでいるような感じを受ける。先ほど邑南町長さんも言われたが、地域を維持していくにはやはり経済的な基盤が必要、そのためには人、モノ、金、情報に対流する必要がある。経済の仕組みを考えたときに、かつて我々の地域も一次産業、林業や農業が生活の源の中心だった。それがこういう社会状況の中で続けていくことが難しくなった。逆に、もっと一次産業の経済的な側面に目を向ける必要がある。人、モノ、金と、文化が私は必要だと思う。私たちの地域も自慢できる文化があるし、自慢できる素晴らしい景観がある。それは都会で生活している方々にもっと正確にもっと丁寧に情報を発信すれば、また違う魅力を認識していただけるのではないかと。それを認識していただくことが私たちの地域の魅力の向上につながる、そういった取組をしたいと思っている。教育の面でも中山



間地域が果たす役割をもっとPRする必要がある。安芸太田町でも都市部の中高生の体験型民泊を実施している。来た子どもたちは本当に目を丸くしてびっくりしている。これは私たち地域と都市部が次の段階に行ける大きな切り口ではないかと思っている。

ストック効果が問われているが、中国縦貫道と山陽道は、極端に通行量に差があると認識している。うまくバランスをとって、中国道へ車を誘導する、そうすることによって中国道沿線の中山間地に物流、情報等々の新しい可能性が生まれ、ストック効果が高まるのではないか。高速道路の利用料金という経済的な誘導が考えられるのではないか。

#### (広島商工会議所事務局次長 植野 実智成)

コンセプトの中の、個性、対流、ポテンシャルといったキーワードは、地域が活力を上げていく中では不可欠な要素だと思う。素晴らしいコンセプトだと思う。商工会議所は中国地方の中に51ほどあり、常に色々情報交換をしながら企業が元気になっていくための取組、施策を話し合っている。今は県単位での取組であり、中国地方全般でビジネスの対流というものを手がけているところはない。今後はそういったビジネスの輪がどんどん中国地方に広がっていくような取組をやっていかなければいけないと痛感したところ。また地域の活性化という意味では、観光振興が中心になってくる。現在外国からの観光客は広島県も伸びているが、国内からはいまひとつと聞いている。今後は国内の方をどうやって広島県に呼んでくるかということも考えていく必要がある。そういう中で、先ほども話に出たが私どもも修学旅行の誘致活動を行っている。平成19年からスタートし、当初は30名ちょっとだったが1万人は何とか来てほしいということで目標に掲げ、来年度は1万人を超える予約をいただいている。これを通過点として、さらに拡大していきたいと考えている。里山、里海といった観点では、この事業は非常に地域の活性化につながるものなので、経済界としてもぜひ各行政の方とさらにタグを組んで、中国地方にどんどん人がきてくれる仕組みを作っていきたい。観光については各県で色々なポテンシャルをお持ちだと思うので、情報を紹介しあう関係、対話ができる関係というものも、今後商工会議所を通じて作っていく必要があると感じた。

#### (中国四国農政局次長 漆原 勝彦)

今日の資料を見ると中山間地域のところで農林水産業に関するプロジェクトを取り上げていただいている。プロジェクトの内容についてはこれから肉付けしていただくということだと思うが、その際に我々としてこういったことも盛り込んでいただけたらありがたいということは何点か申し上げたい。

1点目は農林水産物の輸出促進。今年3月末に閣議決定された食料・農業・農村基本計画においては、農林水産業の強化に当たる言葉として農林水産業の成長産業化という言葉を使っている。農林水産業の成長産業化の一丁目一番地ということで、6次産業化、輸出促進を位置付けている。中国圏の各県におかれても農林水産物の輸出促進に大変力を入れていただいているところであり、ぜひ中国圏広域地方計画の中に農林水産物の輸出促進についてもしっかり位置づけしていただければありがたい。

2点目は担い手への農地集積と集約化の問題。言うまでもないことだが農業を発展させていく上で大変重要な課題。これを進めていこうということで昨年、各県に農地中間管理機構を整備い

ただき、2年目を迎えてフル稼働が始まった。この農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積と集約化について、ぜひ計画の中に盛り込んでいただければありがたい。

3点目として女性農業者の活躍についても触れていただければと思う。6次産業化を含めて農業を発展させていく上で女性農業者への期待は今大変大きくなってきている。ぜひ計画の中で女性農業者が一層活躍できるような環境整備について触れていただけるとありがたい。

#### (中国運輸局長 河田 守弘)

公共交通、観光についていくつか貴重なご指摘をいただいた。先般の制度改正で地域の公共交通とまちづくりを一体的に考える仕組みができています。従前からの生活交通維持のための補助制度と相まってご活用いただき、持続可能なネットワークが構築されるよう我々としても十分なサポートを続けていきたいと思っています。また観光についても多くのご指摘をいただいた。特に外国人観光客、インバウンドが非常に勢いで増えているので、これをどのように位置付けるかということが重要になってきている。魅力ある観光資源、世界遺産、日本遺産、その他高く評価されている観光地が多くある。特にインバウンドについては拠点が単独で売っていくということではなく、広域的な連携を図ることが不可欠。こういった計画の作業などを通じて広域連携を深めていくことが重要だと考えている。先週も観光庁長官が鳥取県を見させて頂き、観光資源としての潜在力の高さを十分に認知させていただいているところ。広域連携に山陰地域をどのように組み込んでいくか、非常に重要な課題だと考えている。

#### (中国地方整備局・事務局)

これから時間をかけて計画を作っていくが、10年間にわたるかなり広域な計画なので、コンセプトについてきちんと議論させていただきながら皆で担いでいけるように、さらに皆様方のご意見を賜りながら深めてまいりたい。皆様から共通に、特にミッシングリンクの解消を含むネットワークの充実というお話があったので、きちんと受け止めながらさらに進めてまいりたい。中国圏の特徴的なこととして、多様な文化を持った小さな集落が中山間地域には非常に多いので、これについては冒頭に山下会長から問題提起をいただいたが、構成のあり方も含めてさらに深めてまいりたい。安心防災については先週の洪水などを見ても明らかなように圏域による協力も含めながら対応をきちんとしていくことが重要だということについて、きちんと受け止めてまいりたい。圏域間の連携の話についてもご意見をいただいたが、特に四国との連携については全国計画の中でも記載があるので、事務的なものを進めながらさらに協議会の皆様にも四国との連携を中心にしたご意見を賜る場を設けて、ご指導いただきたい。今までいただいたご意見などを踏まえて特に10年間の長期的な計画であり、総合的な計画であることを踏まえ、わかりやすく、また地方創生あるいは社会資本整備に関する計画など、同時に平行している計画もあるので、そうした中での圏域全体の骨太の計画としてとりまとめてまいりたいと思うので、さらにご協力をお願い申し上げます。

#### (4) その他（全体を通じた意見など）

意見なし

中間整理のとりまとめは会長に一任することで異論なし。

**(中国地方整備局・事務局)**

本日は大変お忙しい中、お集まりいただき、また熱心なご議論をいただきまして本当にありがとうございます。また山下会長には非常に効率的に議事を進めていただき、どうもありがとうございます。色々ご意見をいただきました。振り返りますと8月14日に全国計画が閣議決定され、今回初めての協議会ですので、形式上はキックオフの会でございます。そんな中で色々ご意見を賜うことができたというのは再スタートとして非常に良かったと思います。これから幹事会も衣替えをしてやっていくことになると思いますが、これまで何回もご議論いただいているということもありますので、大きな方向としてはこれで良いのではないかというご意見だったと思います。あとは細かな文言、あるいは打ち出し方について年度末の計画決定に向けて色々な形で引き続き調整させていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

**3. 閉会**

**(事務局)**

今後、市町村の計画提案、中国圏と四国圏の合同協議会、その後に学識者の意見もつまみながら来年1月には第5回協議会を開催させていただき、計画原案をとりまとめていただくという方向で予定しています。関係機関の皆様におかれましては引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。これをもちまして第4回中国圏広域地方計画協議会を終了させていただきます。まことにありがとうございました。

以上